

## 2005年5月15日の日記 Part 3

Part 2 は、アダムが“リエゾン（危険な関係）”日本ツアー公演について語ってくれました。最終章は帰国後から近況までです。

7週間のツアー公演も終わり頃になると、僕はくたくたで倒れそうで、大きな休みがほしくなっていたほどだった。

ロンドンに戻って最初にしなければならなかったことは“リエゾン”の今後を話し合うミーティングと2週間の陪審員義務(\*)を果たすことだった。これはたぶん僕の人生の中でも一番退屈なことだったんじゃないかな。ちょっと気が滅入ったけど、しょうがなかったんだ。今回は逃れられなかった。去年、逃れようとしたんだけど一年延期してくれただけで、結局はやらざるを得なかった。とにかくこの陪審員義務を果たして、やっとまた今後の“リエゾン”関連の仕事にとりかかった。

日本ツアーの時サドラーズ・ウェルズ劇場のトップがショーを観に来て、とても気に入ってくれてね。今夏“リエゾン”をサドラーズで上演することになったから、今僕はとても興奮してるんだ。ほとんどオリジナル・キャストだし、最高だよ。僕たちは皆、すごくワクワクしてるし、ショーの関係者たちも皆、喜んでるよ。また“リエゾン”をやれるなんて本当に嬉しいよ。これは僕にとって素晴らしいことなんだ。つまり僕たちは正しいことをやり遂げたっていう意味だからね！

これからのこと：それで、今はちょうどオペラ・ハウスのリンバリー・シアターで再演される“兵士の物語”の稽古中なんだ。また、この作品をやることができ最高だよ。昔の仲間に出会えるのも楽しいしね。ウィル・ケンプ、マシュー・ハート、ゼナイダ・ヤノフスキー、あともちろんタケット氏自身にもね。この作品をもう一度できるのは嬉しいけど、たった5回だけしか上演できないのは本当に残念。これだけ稽古して5回しか上演できないのは、おかしい気がするけど文句は言えないよね。もう一度やれるチャンスがあるのは、いいことなんだから。

で、その後はまた“リエゾン”に戻るよ。僕たちはこれから2, 3年間の“リエゾン”ツアー公演をいくつか企画しようとしている最中なんだ。世界中のいろいろな所へのね。すごくエキサイティングだよ。たくさんの方がこの作品を観る前から、とても興味を持ってくれてるみたいで嬉しいよ。うまくいけば今年度のロンドン公演で、この作品の真価が認められて、公正に評価してもらえるとと思う。また“リエゾン”をやることができ素晴らしいよ。君たち皆がたくさ

ん観に来てくれるといいな。僕たちが“リエゾン”をやるのは、他でもない君たちに観てほしいからなんだ。こういう機会をもらって僕は本当に恵まれてると思う。たとえ、もし明日、突然全てがストップしてしまったとしても、“リエゾン”を達成したことは僕の誇りだし、そのことをとても幸福に思っているから、最高だよ。

とにかく、もうあれこれ言うのはやめるよ。これから楽しみなことがたくさんあるからね。皆にもう一度、応援してくれてありがとう。特にここ数ヶ月間、とりわけ素晴らしかった“日本代表チーム”(=日本のファンの皆)に、それからもちろん、はるばる日本まで来て僕を見守ってくれたカレンとジェーンにも、ありがとう。早く次の日記が書けるといいな。

じゃあ、元気でね。  
バーイ！

Adam x

(\* 陪審員義務 = jury service

陪審員：陪審制を採用している裁判手続きにおいて、一定の基準と手続きにより一般市民の中から選ばれ、その審判に立ち会う人。(大辞泉より)